

バンクパーク - ふれあいを活発にする競輪場と公園の一体化

1190100 丹生 晃瑠

指導教員 吉田 晋

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. はじめに

私の出身地である京都府向日市は、京都府の南西部に位置し、面積は西日本の市では 1 番小さい市 (7.72 km²) でありながら、人口は京都府の上位に入り、人口密度は全国でも上位に入る。

2. 対象敷地

2-1 向日町競輪場

対象敷地は京都府向日市寺戸町西ノ段 5 丁目にある向日町競輪場とする。敷地は、向日市の西部に位置し、周囲には向日市役所、向日市文化資料館、向日神社などがあり、西部には、住宅団地がある。よって、比較的地域住民が多く集まるエリアである。また、最寄り駅である阪急電車「東向日駅」・JR「向日町駅」から競輪場まで無料バス(往復)が運行しているため、観光客も訪れやすい環境となっている。



写真1 向日町市役所



写真2 住宅団地



写真3 東向日駅



写真4 バス乗り場

3. 背景

向日町競輪場では、1991年から年に1回、向日市まつりが開催されている。毎年11月中旬に2日間開催され、向日市内外約5万人が集まり、私も子供時代に毎年友達と訪れていた。市民の皆さまがつくる「市民ふれあい広場」や多彩なプログラムの「ふるさとステージ」や、競輪場バンク内でスポーツができる「Doスポーツ」などたくさんの催しがあり、馴染のある懐かしい思い出の場所となっていた。

そんな競輪場も、2009年度から単年度収支の赤字を計上し、あり方が問われ始めた。そして、『向日町競輪事業検討委員会』というもので、「財政に貢献できない以上は継続の理由が薄く廃止についてもやむを得ない」という内容で委員会としての提言がまとめられ、廃止する方向が強まった。

しかし、地元である向日市も6月に競輪場の存廃について意見を求めていた。また、3月に廃止となったびわこ競輪からファンが向日町競輪に流れたこともあり、

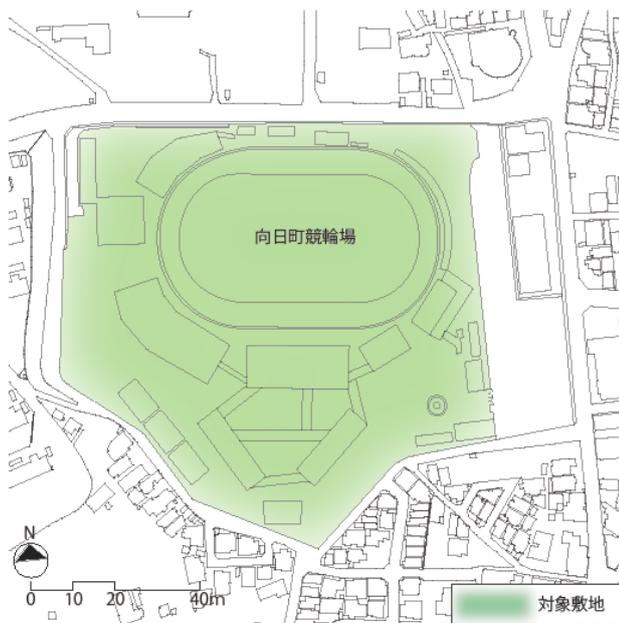


図1 対象敷地と周辺を示した現況図

(国土地理院の電子地形図に対象敷地を追記して掲載)

2011 年度上半期は黒字に転じたことから最終的な廃止決定は下されなかった。それでも、いまだ「中長期的の存続は困難」とされている現状があった。

しかし、私自身も祭りで何度も競輪場を訪れていたが、今回の設計が始まるまで、競輪自体を見にいったことは1度もなく、同じ境遇の人も少なくないと思う。

それでも、向日市側が存廃に意見を求めたように、思いの地である競輪場を失くしたくないという思いが、今回の設計をすることに至った経緯である。

4. 現状

4-1 問題点-薄い客層と入りにくい雰囲気

そこで存続問題が起きてしまった原因を考えるために課題点を探した。

まず、客層において、9割方高齢者がこられていて、場内にはほとんど若い人が見られなかった。

さらに、レースが終わると、床にごみが散乱するなど、気軽には入りにくい環境であった。



写真5 閑散とした場所



写真6 ごみが散乱している床

4-2 問題点-使用停止となっていた建物

図2にもあるように、大部分の施設は昭和40年代に建設されたもので既に老朽化してしまったという理由もあるが、何より人が集まらなくなってしまったことが原因で、このように使用停止となるエリアが増えていった。

その結果、行動範囲が限定され、何の用途もなくただ場所があるだけのエリアが混在してしまうという悪循環が起きてしまっていた。

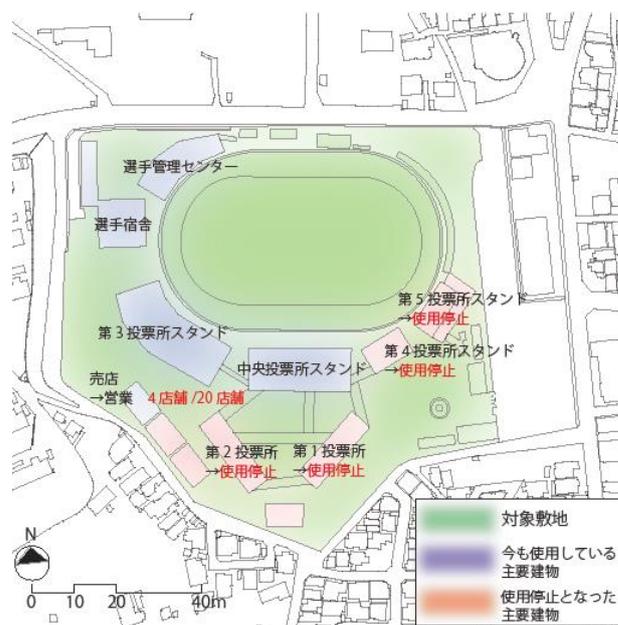


図2 現況平面図

(国土地理院の電子地形図に対象敷地と建物の利用状況を追記して掲載)



写真7 営業していない売店



写真8 使用停止となっているスタンド

4-3 利点-高齢者にとっての拠り所

前記の、客層が高齢者に偏っているという問題点の反面、高齢者にとっては、拠り所となっていることは、利点として挙げられる。

お互い楽しく話しながら、レースを観て、コミュニティの場としている高齢者もいれば、自分の時間を有意義に過ごしている高齢者もいて、競輪場に生き甲斐として来ているように、私は感じた。

5. 目的

今回は、向日市祭りだけでなく、競輪のレースにも足を運んでもらって、向日町競輪場に活気を持たせ、存続

問題を一蹴してもらえそうな設計をすることが目的である。

そこで、“競輪”をきっかけに幅広い層の人々が集い、物騒な雰囲気をもたらし、“競輪”のイメージを一新するような「バンクパーク」を設計したいと考えた。

6. 提案

バンクというのは、競輪を行う傾斜のあるコースのことを指す。また、その傾斜を使って、レース終盤に先行している選手を後方から一気に追い抜く戦法をまくりというが、その追い抜いていくシーンは躍動感があり、競輪の醍醐味のひとつとされている。

競輪のそんなポテンシャルを最大限に活かし、現状の入りにくい物騒な雰囲気を壊し、親子連れなど広い層に愛された競輪場にしていきたい。

そして、広大な敷地を活用し、各々が居心地の良い空間と感じるような公園と一体させることで、誰でもふらっと立ち寄れる、気軽に集う場所にして、ふれあいを活発にする地域のランドマークを目指したいと考えた。

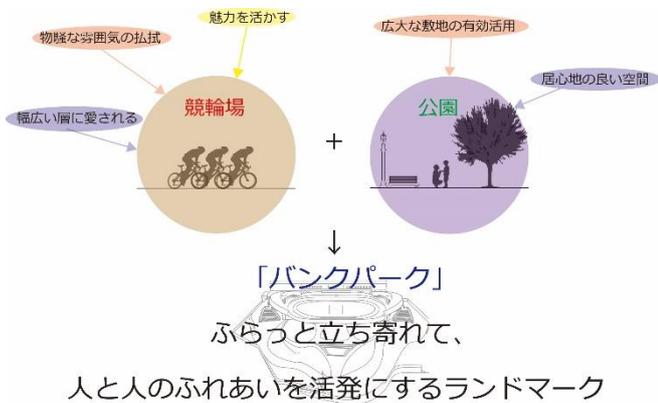


図3 競輪場と公園の一体化

7. 設計

7-1 平面計画

現在、使用停止となっている建物は、用途もなく、ただ面積をとっているだけとなってしまっているため、まず、残った施設の投票所・選手管理センター・選手宿舎を1つの大きい建物に集結させることで、動

線を簡略化させた。

そして、空いたスペースのところに大きく公園を設計し、競輪場と公園と一体化させ、場内を1周しながら競輪に触れ合いながら、コミュニティーを生み出す回遊性を生成させた。

さらに、レースのない日でも開放をしているため、2階通路を通じ、バンクの周りを周り、選手の練習風景を見ながら、散歩をするなど、いつでも競輪の魅力を感じることが出来る。



図4 平面図 (GL)

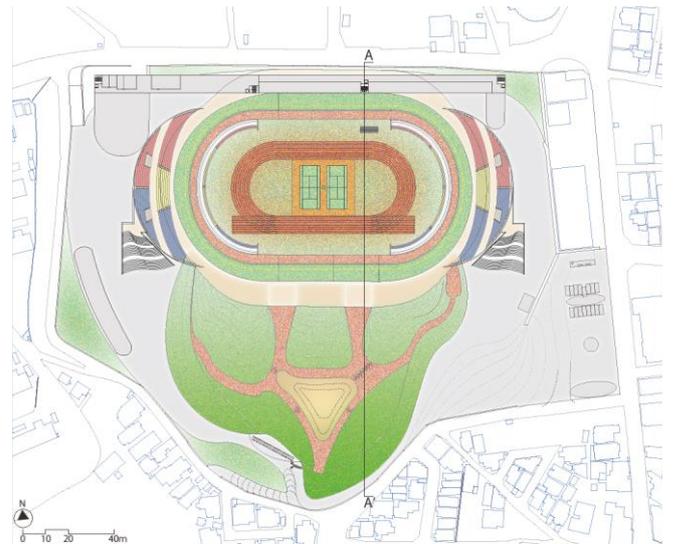


図5 平面図 (GL+12m)

7-2 断面計画

図6のように、公園部分は、高低差を生かし、低い部分では、大きいスタンドの全景を見ることが出来、様々な曲線の傾斜を登った先に、バンク全体を眺めることが出来る仕掛けを考えた。

また、公園の地下部分では、レースを間近で見ることが出来るカフェを設計し、一息つきながら、そこでしか味わえない臨場感を生み出させた。

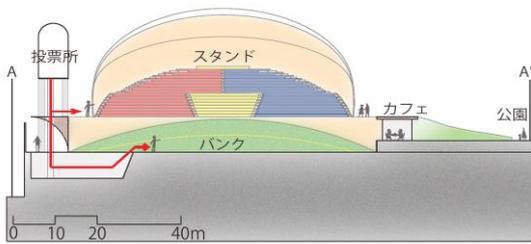


図6 A-A断面図（鉛直方向に5倍拡大）

7-3 公園計画

まず、公園の地下部分に、先ほど述べた、レースカフェがあり、その横に、0歳から小学生まで楽しめるようなキッズスペースがある。そして、遊具などがあり、子供の冒険心をくすぐるようなアドベンチャーゾーン、遊んでいる子供を見守る親や年配などが、落ち着いて自然を感じる事の出来るリラックスゾーンがある。最後に、4つのゾーンの中心に、会話を楽しめる、パブリックゾーンがあり、様々な楽しみ方を設けることで、居心地の良い空間を生みだし、人と人のふれあいの場を作るような公園を考えた。

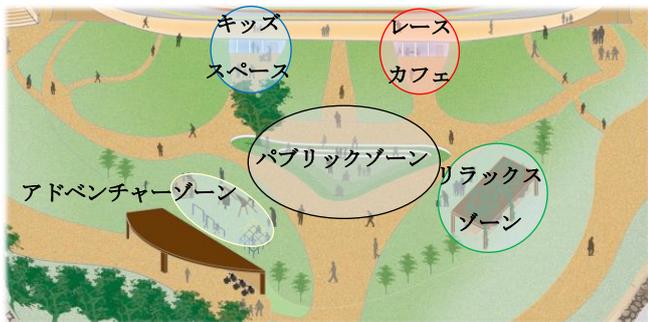


図7 公園図

8. まとめ

「バンクパーク」は、競輪をギャンブルとしてではなく、競技として捉えて、様々な視点で観ることが出来る、観客席を設けることで、競輪の魅力を活かす。

そして、広大な敷地を、子供がはしゃぎ回る場所、ベンチなどで、心地よい風と共に自然を感じる場所、会話を楽しむ場所、そんな変幻自在な公園として活用し、競輪場と一体化することで、自然と人が集まり、快適に時間を過ごせる、居場所を設けることが出来たと考える。

いつでも、幅広い層の人々が楽しく交流し、たくさんの思い出を刻んでもらうことで、向日町競輪場、そして、向日市に、愛着・誇りを持ってもらいたい。



写真9 全体写真

9. 参考文献

- 1) 平成29年全国都道府県市区町村別面積調
http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO/201710/26_kyoto.pdf
- 2) 向日町競輪事業検討委員会 報告書
<https://www.pref.kyoto.jp/shingikai/somucho-03/documents/1300068847548.pdf>
- 3) “基盤地図情報ダウンロードサービス” 国土地理院
<https://fgd.gsi.go.jp/download/documents.html>, (2019.01.09 取得)